



防災のとびら

東日本大震災から
8年8か月

石巻市立広瀬小学校防災だより 文責：佐竹
令和元年11月1日 No.15

備えることの大切さ！

10月30日に、5・6年生で学校の防災備蓄品を点検しました。昨年整理した講堂ギャラリーの備蓄品は、先日の台風19号によって雨漏りの被害に遭ったので、新しい段ボールに入れ直したり、表示を付け替えたりしました。また、教育委員会から、新たに防災備蓄品を配布されたので、以前からある備蓄品との入れ替え作業も行いました。安全委員会の子供たちは、防災訓練で使う水やポリ袋を、学年ごとに仕分けする活動をしました。



今回の活動を通して、いざ災害が起きたら、どんな物が必要で、その必要な物はどこに置いてあるのか、また、備える事の大切さに改めて気付くことができたようです。特に6年生は昨年度に引き続き2回目の点検でした。「食料の数に対して乾電池や懐中電灯の数が少なすぎる。」と宗太さん。より災害時を意識する活動になりました。

～子供たちの感想より～

- 市から防災備蓄倉庫をもらっているということを初めて知りました。（5年凜花さん）
- ギャラリーにはたくさんマスクなどがありました。整理は大変だったけど、これがみんなの役に立つといいです。（5年亜美さん）
- 整理することは大変でした。運んだり、同じ物があるところに置いたりしました。これで、災害が起こっても十分な物があるので整理できてよかったです。（5年葵陽さん）
- もし自分が避難してきたらどこに置けば分かりやすいかということを、みんなで話し合いながらできたのでよかったです。（5年智也さん）
- 去年よりも新しい物が増えていて整理が大変だったけど、今回は工夫して同じ物は同じ所にまとめて前よりも分かりやすくていいと思いました。（6年芽依さん）
- 分かりやすいということは、必要になった時に取りやすいので、整理してスッキリしました。（6年優雅さん）
- 昨年に比べて「ここ、こうした方がいいんじゃない。」という意見が出たり、自分から意見を出したりして、整理することができるようになりました。（6年明日香さん）